

カトリーヌ10世
Catherine X

PROFILE

グローバル化が進む
社交界事情にも通じる。
密かな趣味は人間観察と
コスプレ。好きな飲み物は
モンラッシュ。日本では
ほとんど知られていない、
ある小国の女王との
ウワサも!



2024年1月26日に公開される映画「哀れなるものたち」は、未知の映画体験を求めるアナタにおそろおそろオススメしたい、前代未聞の芸術的怪物です。

19世紀ウィクトリア朝のフランケンシュタイン風味と現代のスチームパンク風味で味付けされた、「女はどのような女に自覚め、女として進化していくのか」を大胆でワイルドかつSF的に描く奇譚です。女性に関心の高いアナタにとっては、一種のファム・ファタール(運命の女)モノとしても身に沁みるというか、マゾ的なキョウフを味わえる映画体験となるのではないのでしょうか。

エマ・ストーンが演じるヒロインのベラは事情があつて、世間体のために積み深い振る舞いをするなどという発想をもちません。むきたしな「生の女」を生命力がほとばしるままに生きる「被験者」なのですが、そんなベラに興味を示した色男の弁護士、ダンカン(マーク・ラファロ)は彼女と駆け落ちして異国の旅に連れていきます。百戦錬磨のダンカンは、最初は遊んで捨てようくらいの気持ちだったのですが、決して自分の思いどおりにはならない自由奔放なベラに振り回され、怒り狂ううちに、気がつけ

ばベラの虜。

まさかというか、なるほどの結末はご自分の目で確認いただきたいのですが、そういえばリドリー・スコット版「ナポレオン」でも、英雄は「あんたなんて私がいなければ何者でもない」と強く言い放つジョセフィーヌにメロメロにやられていました。英雄も百戦錬磨の色男も、強く自信に溢れて迷いのない女性に振り回されたいし、なんなら支配されたものらしい。

というわけで今回は、「女性の目覚め」の映画の話でもあることですし、本誌愛読者のなかに意外に多い女性読者に対して呼びかけます。アグレッシブな男性に対しては、媚びず従わず、彼の上をいく堂々たる自信をもって振る舞うことがモテる秘訣であることに「目覚めなさい」。恋愛成就のそのあとは破滅にいたらないようコントロールしてね。

04
Lifestyle

男たちよ
目覚めなさい

イラスト/ユリコフ・カワヒロ

女たちよ
目覚めなさい